

1 自己評価

(1) 評価結果

別紙「令和4年度 新見高等学校（北校地）具体的計画」参照

別紙「令和4年度 新見高等学校（南校地）具体的計画」参照

(2) 分析・改善方策

別紙「令和4年度 新見高等学校（北校地）具体的計画」参照

別紙「令和4年度 新見高等学校（南校地）具体的計画」参照

2 学校関係者評価委員名

斎藤 健司（新見公立大学教授）

田原 幸（新見高校南校地PTA会長）

宮原 康成（思誠小学校愛児会副会長）

高瀬 広視（新見市総務部長）

安達 喜彦（新見高校北校地PTA会長）

西村 成人（新見南中学校長）

田中 康信（新見商工会議所会頭）

3 学校関係者評価

昨年度末に今年度の学校経営計画を示した。それをもとに各分掌で今年度の重点項目と具体的な取組を提案し、校地ごとに「令和4年度具体的計画」としてまとめた。各項目の自己評価の結果をまとめた資料をもとに、自己評価の適切さ、改善方法の適切さ、総合評価について評価を求めた。

(1) 「自己評価のプロセス」について

各分掌の重点項目と具体的な取組について総合評価を実施した。校地ごとに職員会議等で各分掌の自己評価等を参考にしながら、各項目の達成状況を総合的に評価した。分掌ごとの自己評価にとどまらず総合的に評価することで具体的計画の達成状況が把握しやすくなり、今後取り組むべき課題が捉えやすくなった。

(2) 「自己評価の適切さ」について

両校地とも妥当であるという評価であった。

(3) 「改善方策の適切さ」について

両校地とも妥当であるという評価であった。

(4) 「総合評価」について

両校地とも妥当であるという評価であった。学校の取り組みに理解を示していただいた。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

主幹教諭を中心に、総合評価と学校関係者評価委員会で出された助言や校内からの提言、学校自己評価アンケートの結果をもとに、令和4年度の学校経営計画を見直し、次の方向性で策定していく。

■検討に際する全般的なこと

- (1) 学校経営計画とランドデザインの整合性をとる。
- (2) 令和6年度の校地統合を踏まえたものにする。
- (3) 「本校の理念」とスクールミッション、ランドデザインの表現を統一する。
- (4) 「内外の環境分析」が現状に即しているか検証する。
- (5) 「スクール・ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン」が「本校の理念」と現状に即しているか検証する。
- (6) 「当該年度の具体的な学校経営目標・計画」は、本年度の学校自己評価アンケート集計結果、具体的計画の最終評価を踏まえ、注力すべき点を明確にする。
- (7) こうして策定された学校経営計画をもとに校地ごとにより具体的な目標・計画を立てる。

■「当該年度の具体的な学校経営目標・計画」令和4年度のものを項目別に検討

- 「1 校地間、学科間、学校と地域や家庭の連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進」
 - ◆学校自己評価アンケートの肯定的評価は他の項目と比較して低い。校地統合に向け、より具体的な教育活動や教育環境の整備、充実が必要である。
- 「2 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を育む効果的な教科指導の工夫」
 - ◆学校自己評価アンケートの肯定的評価は高い水準にある。授業参観や授業改善に向けた取組の実施などを通してさらなる指導力の向上が求められる。
- 「3 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成」
 - ◆新型コロナウイルス感染症への対策も定着し、昨年度にまして、充実した取り組みができた。今後も新見市や関係機関とも協力しながら、継続発展させていく。
- 「4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開」
 - ◆地域連携広報室の広報全体計画に基づいた活動ができた。一方で、生徒・保護者の評価が教員と比較して低いことが課題である。

■新たな4項目として

次年度の校地統合に向けて必要な内容にした。

あわせて、今年度を振り返り、若干の修正を加えた。

<改善案>

- 1 学科間、学校と地域や家庭の連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進
特に学科間の特色を生かした新しい新見高校の創造
- 2 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を育む効果的な教科指導の工夫
特に1人1台端末の有効な活用方法の研究
- 3 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成
特に地域連携活動の継続発展
- 4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開
特に新見高校広報全体計画に基づいた広報